

「英語教育改善プラン」に基づいた教員の英語力・指導力向上に向けた取組 「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～堺市～

課題と分析

1 小学校 新学習指導要領の全面実施に向けた教員の指導力向上

→ 新学習指導要領の周知と合わせ、理論から具体的な指導について研修を実施している。6年生の80.5%が「英語を使ってコミュニケーションを図りたい」と回答し、外国語活動に肯定的な児童が多い。※平成30年度堺市「子どもがのびる」学びの診断児童質問紙

2 中・高等学校 生徒の英語力向上をめざし、「言語活動」とおした指導への転換

→ CAN-DOリストを作成し、育成する力を明確にしたうえでの指導、言語活動の充実が進む。しかしながら、言語活動実施率は全国平均より低く、引き続き「指導と評価が一体化した授業づくり」について理解を深める必要がある。

対策

- 1 研修実施 「外国語活動指導者研修」「英語科教員指導力向上研修」「英語教育推進リーダー伝達研修」の実施
- 2 研修協力校（英語教育推進モデル校）による研究の推進、取組成果の発信

取組内容

1 小・中・高研修実施（外部専門機関と連携した事業）

(1) 外国語活動指導者研修・英語科教員指導力向上研修

- ・平成28年度は小学校3～6年全学級担任が受講
- ・大学教授等を招聘し、「新教材を活用した指導」などを実施
- ・教員の英語力や指導力向上に向けた研修実施

(2) 英語教育推進リーダーによる研修（小・中）

- ・全中学校において2名以上、小学校は各校1名が受講

2 研修協力校（英語教育推進モデル校）の取組

- ・専科教員による学級担任の英語力・指導力向上、学級担任を中心とした授業を全市に公開
- ・小5～中3までのCAN-DOリストモデルの作成

3 小中外国語教育の連携推進（本市独自の取組）

- ・中学校教員による高学年各クラスへの週1回の授業支援

成果の波及と周知

◆外国語活動指導者の変容

- ・研修や授業を参観することで、新学習指導要領に基づく指導を理解、不安感の減少。絵本や新教材を活用した、「読み聞かせ」「Small Talk」の取組が進む。

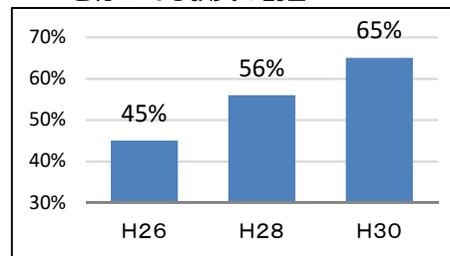
◆中学校教員による外国語活動の支援

- ・中学校教員が単元ごとにSmall Talkのモデルを作成、学級担任はモデルを参考に自身のことを話す等の具体的な取組が進む。

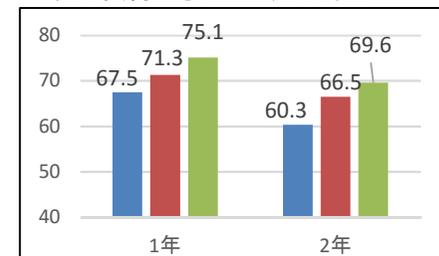
◆中・高等学校の授業改善が推進

- ・全中学校及び高等学校がCAN-DOリストを整備
- ・生徒の言語活動実施割合、及び言語活動時に「あきらめずに表現を考える」と肯定的に回答する生徒の割合が向上

◎ 授業の半分以上の時間、言語活動を行ってる教員の割合



◎ 表現が分からないとき、あきらめず他の表現を考える生徒の割合



（英語教育実施状況調査 / 堺市「子どもがのびる」学びの診断 H26・H28・H30）

課題と解決のための手立て

1 小中連携の全市的な充実

- ・全小中学校管理職、小中一貫教育担当が出席する会において連携の充実を促す。

2 生徒の英語力向上

- ・言語活動実施率は、指導者による差が大きい。英語使用率も差があるため、「教え込み」型の脱却をめざした研修を実施する。

平成29～30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～堺市立美木多小学校～

現状の課題と課題解決のための手立て

- ・市教委主催の研修に参加し、外部専門機関の大学教授等から外国語教育の目標、内容、指導方法について学ぶ。
- ・研修で学んだことを、校内の教職員全体で共有し、教職員全体の指導力向上を図る。

具体の取組の内容

- 外国語活動・外国語科の目標をふまえた授業改善
 - ・専科指導教員やNSとの協働による「話す」「聞く」活動を基盤とした児童の主体的な学びを主とした授業の実施
 - ・タブレット、大型テレビを活用した「見て聞いて学べる」授業づくり
- 日常的に外国語に親しむことのできる取り組みの実施
 - ・朝の会での英語でのあいさつ、NSが各学級の給食に参加
 - ・「クラスルームイングリッシュ」を教室に常時掲示
- 公開授業、研究授業の実施による教職員の研修の実施
 - ・外国語活動の授業を全市向けに実施
 - ・校内での全職員参加の研究授業と大学の教授による研修会の実施

成果③

◎教職員の指導力が向上

- ・外部専門機関の研修で学んだことを外国語活動の授業を実施し、実践内容を5・6年生の担任、3・4年生の担任と共有し、それらを活かして授業づくりに取り組むことにより授業が活性化した。
- ・担任と専科指導教員やNSとの協働で、タブレットや大型テレビ等でデジタル教材を活用した「見て聞いて学べる」授業づくりに取り組み、その中で歌やゲームを取り入れたテンポのいいリズム感のある活動中心の授業が子どもたちを活気づけている。
- ・上記の「活気のある授業」を公開授業や研究授業で実施することで、教職員全体の指導力の向上が図れた。

成果①

◎子どもたちの外国語活動に対する興味・関心、学習意欲の向上

「堺市『子どもがのびる』学びの診断」質問紙調査の肯定的回答の割合

- 5年「外国語活動の時間は好きですか」
・H27 89.2% H28 91.5% H29 96.3%
- 5年「外国語活動の勉強は大切だと思いますか」
・H27 94.6% H28 94.7% H29 97.2%

年々、肯定的回答の割合が増加している。また、堺市の平均値を数ポイント以上上回っており、本校の子どもたちの外国語活動に対する興味・関心、学習意欲は年々向上している。

成果②

◎児童の英語力と積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲の向上

「堺市『子どもがのびる』学びの診断」質問紙調査の肯定的回答の割合

- 「外国語活動の授業の内容はよくわかりますか」(5年)
・H27 84.7% H28 93.6% H29 95.3%
- 「英語を使ってコミュニケーションを図りたいと思いますか」(5年)
・H27 85.6% H28 91.5% H29 92.5%

子どもたちが自ら積極的にNSに話かける姿や、子どもどうしのコミュニケーションの中でも英語を使う場面を多く見かけるようになってきた。

今後の課題・方向性

- ①平成32年度の学習指導要領完全実施に向けたカリキュラムの改正
 - ・現在あるカリキュラムをもとに改正作業を進める
 - ・中学校区(本校、城山台小、美木多中との情報共有と連携)
- ②外国語科の目標、ねらいをふまえた評価の見直し
 - ・校内組織「評価委員会」での検討
 - ・中学校区(本校、城山台小、美木多中との情報共有と連携)
- ③教職員全体の指導力向上
 - ・公開授業、研究授業の実施

平成29～30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～堺市立八田荘中学校～

現状の課題と課題解決のための手立て

- ・ペアやグループによる言語活動を中心とした授業を実施し、コミュニケーション能力を育成する。
- ・様々な英語力の生徒が「伝わった」「わかった」と感じることをめざし、アウトプットの機会を十分に設け、英語学習への関心意欲を高める。

具体の取組の内容

- ・毎授業でToday's Goalや授業の流れを示し、授業で何を学ぶか、何を学んでいるかを明確にした。①
- ・ICTを活用し視覚的援助を行い、多様な生徒が負担なく学ぶことができる環境を整えた。①
- ①
- ・基礎の徹底として、教科書のBasic Dialogや本文のペア音読を帯活動として実施した。②
- ・スピーキングテストを定期的実施し、「話す力」の育成・評価を計画的に行った。②
- ・ライティング課題を定期的に出し、論理的に「書く力」を育む取り組みを行った。②
- ・中学校3年生で英検を受験し、英語への意欲・関心を高め英語力の向上を図った。②
- ・外部講師による授業や本校教員による公開授業を実施し、授業力の向上を図った。③
- ・教科会議で、他学年の取り組みや外国語活動の取り組みを共有した。③
- ・各学年や外国語活動のデータを英語科で保存し共有した。③
- ・英語教育推進モデル校として、専科教員が校区内小学校の外国語活動と中1の授業を担当し、円滑な接続を行った。外国語活動で使用した絵カードやクラスルームイングリッシュ、活動時のルールを中1の授業でも用い、負担感の軽減を図った。
- ・小学校高学年から中学校1, 2, 3年生のCAN-DOリストを作成した。

成果③

【中1・中2】堺市「子どもがのびる」学びの診断

「英語の授業の内容はよくわかりますか」
中1全教科中で肯定率が最も高い。
中2堺市平均を上回っている。

「英語の勉強は好きですか」
中1, 中2ともに肯定率が最も高い。

【現中3】2018年度第2回英語実用検定結果

合格率は高くないが、教科書を活用した英文の理解や練習など基礎を徹底することにより、英語に対して自信がついた生徒が増えた。

成果①

授業の目標や流れが明確で、視覚的にも理解しやすくなるような取り組みを通して、生徒の集中力が高まった。



成果②

外部講師の授業や本校教員の公開授業を参考にして、授業の工夫改善を行い、教員の英語使用率を上げた。



今後の課題・方向性

- ・基礎の徹底、スピーキング、ライティング活動など様々な言語活動に取り組み、生徒の英語力や英語学習に対する関心意欲を高める。
- ・「書くこと」においては課題があるため、引き続き、書く力の向上に取り組む。
- ・教員の英語使用率の向上を進める必要がある。

平成26～30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～堺市堺高等学校～

現状の課題と課題解決のための手立て

- 【課題】『生徒一人ひとりが、自分の思いや考えをもち、英語で発信する力を獲得できるようになる指導の確立』
【手立て】生徒の学習意欲を喚起し、思いや考えを発信する力をはぐくむ指導を学校全体で追究、実施する。

具体の取組の内容

(1) Authenticな教材の開発と活用

「身近な話題」及び「社会的な話題」について、Authenticな教材を用い、思いや考えをもち、英語で表現する技能統合型の言語活動を実施する。

【日々の学習】

教科書に登場する人物や題材について、映像や関連資料、また原典資料を教材化し、動機付けや興味・関心を高める。

日本人や自然災害等を扱ったニュースや新聞記事等を取りあげ、実際に用いられる英語に触れ、理解し、考え、発信する。

【プロジェクト型学習】

「オバマ大統領広島スピーチ」や「マララ・ユスフザイの国連スピーチ」、「エマ・ワトソンの国連スピーチ」等を取りあげ、個々に考え、自分の意見をもち、他者と共有して考えをさらに深め、感想や意見をまとまりある英語で発信する。

(2) 実際に英語を使う場面の創出

【帯学習】

英語で簡単なやり取りを行う。既習事項や基本表現についても、スキット等のやり取りを通し、自然な定着を図る。

【パフォーマンステスト】

フリーディスカッション、ディベート、プレゼン等、さまざまな活動を設定し、到達目標を生徒と教員が共有したうえで継続的に取り組む。「自分の伝えたいこと」について会話を継続したり、相手を意識して発信したりすることの大切さを体感する。

(3) 実用英語技能検定等、外部試験を効果的に活用し、生徒の英語力を把握、検証し、指導改善に生かす。

(4) 短期海外研修派遣や研修で来堺する外国人の学校訪問を受け入れ、機会を設定する等、国際交流の機会を充実させる。

成果①

実用英語技能検定(STEP英検)、全国商業高校協会主催英語検定(全商英検)の受検を励行している。

4技能を総合的に評価・検証できることもあり、生徒の取組意欲は高い。

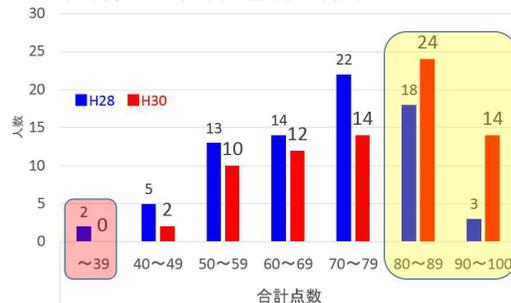
STEP英検2級合格には課題が大きいですが、準2級、3級の合格率は向上している。教員は結果を分析、検証し、授業改善に生かすなど、積極的に活用している。

平成30年度6月STEP英検受験者84人
平成29年度6月STEP英検受験者84人
平成28年度6月STEP英検受験者140人
平成27年度6月STEP英検受験者110人

成果②

【学力面の変化】

(H28年4月, H30年8月 基礎力判断テスト)



現3年生の同一集団比較により、入学時に比して、大幅に学力が向上している。「英語を使う力が向上した」と実感している生徒は78ポイントを占めている。

今後の課題・方向性

コミュニケーション能力の一層の育成に向け、4技能5領域を総合的に育成するプロジェクト型の指導、またパフォーマンステスト等の質的向上について、一層研究を進めたい。

・外部試験を学習の成果の確認指標として効果的に活用し、成果を生徒の指導に生かしたい。学習意欲の向上が受験率の向上につながるよう、啓発する。

・生徒が学習した英語を用いて実際にコミュニケーションを図る機会をさらに充実させることをとおし、生徒自身が自身の学習の成果と課題を認識し、より主体的に英語学習に取り組めるようにしたい。